

「丹波ブランドと市名について」のとりまとめ

平成29年 6月 9日：篠山市議会政策討論会

I 市名における混乱・誤解

1 「丹波」「丹波篠山」の混乱・誤解について

- (1) 調査により要望団体指摘の混乱、誤解は存在している。
- (2) 同様の混乱・誤解は、その多少はあるとしても、他の市町にも存在する。

2 「丹波」「丹波篠山」の混乱・誤解を実感される市民の状況について

- (1) 要望のあった4団体（篠山市商工会・丹波ささやま農業協同組合・丹波篠山観光協会・丹波ささやま栗振興会）の関係者や、農業者などで混乱等を強く感じている。
- (2) 議会報告会において、天気予報の「丹波・篠山」表記に違和感を持つ意見が多く聞かれた。
- (3) 生活上不都合を感じていない、また、感じていても許容範囲とする市民も多い。

3 「丹波」「丹波篠山」の混乱・誤解が与える市民生活への影響

- (1) 経 済 … 混乱・誤解が経済活動に影響を与えているとの指摘があるが、統計的に負の影響をつかむのは困難である。但し、今後の影響拡大について留意が必要である。
- (2) 交流人口 … 混乱・誤解が人の交わりに影響を与えているとの指摘があるが、統計的に負の影響をつかむのは困難である。但し、今後の影響拡大について留意が必要である。
- (3) アイデンティティ … 市民の「丹波篠山」への帰属意識はとて高く、その名称にプライドをもって生活している。このため、混乱・誤解は市民のアイデンティティを損している。なお、「丹波篠山」より「篠山」に高い帰属意識を示す市民もある。

4 要望団体等の意向について

要望4団体をはじめ市名変更に賛成する市民は、「丹波篠山」を先人から預かったものとして、次世代へ責任を持って送るため、混乱・誤解を容認できないとする。

II 丹波ブランド

1 丹波ブランド価値の高さは、市民誰もが認識している。

2 市名に丹波ブランドを冠することの優位性について

篠山の利益が、丹波を冠する自治体に流れているとの指摘もあるが、統計データで有意な数字を見出すことは困難である。

丹波市などの誕生により、篠山市が損失を被ったというよりも、「丹波」を自治体名に冠した市町が優位にブランド振興を進めていると考えられる。

3 丹波ブランドは、丹波地域7市町の共有財産であり、大丹波連携などで協力して振興していくべきとする意見が多い。

Ⅲ 丹波篠山ブランド

1 丹波篠山ブランドも、丹波ブランドと同様に高い価値を有するものである。市民も「篠山」に比べて「丹波篠山」のブランド的優位性を認識している。

2 丹波篠山が指す地域が、「丹波・篠山」との表記の一般化やウェブサイトでの誤用により、兵庫丹波地域またはそれ以上に拡大しつつある。

3 丹波篠山の拡大がブランド振興に与える影響

(1) 農産物原産地表示に、知名度の高い「丹波篠山産」を使用できなくなる恐れがある。

(2) 地域団体登録商標の「丹波篠山」を確立することが困難になる。

Ⅳ 現状における課題への対応方策、効果と期待度

「丹波」「丹波篠山」の混乱・誤解の現状に対し、次のとおり必要な対策の検討と、方向付けが強く望まれているところである中、その効果と期待度を探った。

1 混乱・誤解の原因者（「丹波」冠する自治体・丹波県民局・NHK等）に対し、必要な改善を求める。

(過去の取り組み)

平成25年11月7日付（篠秘第577号）、篠山市・篠山市商工会・丹波ささやま農業協同組合・丹波篠山観光協会が連名で、丹波市長あて、「丹波」と「丹波市」の使い分けについて（お願い）文書を提出されてきた。

(効果)

この文書に対する返答が得られず、今日に至っており、効果は得られていない。

(期待度)

(1) 「丹波」を冠する自治体との混乱・誤解の課題に対しては、旧丹波国と個

別自治体との使い分けについて、大丹波地域での正しい理解と使用の確立が必要である。期待される成果への道のりはかなり難しい方策ではあるが、継続的な周知・対話が必要である。

- (2) NHK等の放送局とは、改善の協議ができる余地があると考ええる。
- (3) ウェブ上の混乱・誤解の原因者に改善を求めることは容易ではなく、期待度は低い。
- (補足) 混乱・誤解の抜本的解決には、「丹波」を市名に冠した自治体の名称変更が必要との意見もある。

2 「篠山ブランド」「丹波篠山ブランド」をより強力で推進する。

(過去の取り組み)

平成26年3月「篠山市の市名を考える検討委員会」の報告書より、「丹波篠山ブランドの強化・定着・維持と『篠山』の知名度の向上により、更なる市の発展に寄与することが期待され、篠山市各方面で取り組まれてきている。

主要な取り組みとして、平成27年日本遺産第1号として、「丹波篠山デカンショ節 ～民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶～」、平成29年3月には「きっと恋する六古窯 ～日本生まれ、日本育ちの焼物産地～」、平成28年にはユネスコ創造都市ネットワーク「クラフト&フォークアート分野」へ加盟を果たした。

(参考) 平成27年度決算にみる主なブランド振興費

・ 日本遺産のまち魅力発信事業	1, 689万円
・ 創造都市ネットワーク推進事業	1, 221万円
・ 丹波篠山ふるさと応援事業	1, 349万円
・ 特産物振興事業	1, 026万円
・ 特産物振興PR事業	226万円
・ 観光宣伝事業	1, 718万円

(効果)

「丹波篠山」「篠山」の知名度アップが図られつつある。

(期待度)

「丹波篠山」「篠山」の認知が進めば、誤解の解消につながる。市名変更賛成の市民、慎重な市民、いずれもがさらなるブランド振興の必要性を感じている。しかし、「丹波篠山ブランド」が篠山市のものであるとの状況が維持できなくなってきており、新たな展開が必要と考える。

3 市名変更による「丹波篠山」の保護・振興を図る。

(過去の取り組み)

平成26年3月「篠山市の市名を考える検討委員会報告書」から、市名の変更は「財政再建や丹波篠山ブランドの強化・啓発活動の進展状況を勘案しながら適切な時期に検討を行うことが望ましい」との考え方が示され今日に至っ

ている。

(効 果)

- (1) 地域的拡大が懸念される「丹波篠山」を自治体名として定義することができ、知的財産保護につながる。
- (2) 「丹波篠山」に帰属する多くの市民のプライドが一定保護され、市民の一体感の維持につながる。
- (3) 自治体の認知度の向上が見込める。

(期待度)

- (1) 「丹波」の混乱・誤解の減少にどの程度寄与するかを判断することは困難である。しかし、「丹波篠山」の混乱・誤解の拡大抑止効果を期待することはできる。
- (2) 自治体の認知度向上により、プラスの経済・社会効果が期待できる。

V 市名変更について

1 要望4団体が求める市名変更について

市名変更は、混乱・誤解を根本的に解決するものではないが、市民のプライドの保護とともに、シティブランド向上効果が期待され、人口減少、財政縮小時代の自治体振興策として検討するに値する。但し、市名変更は、市民生活に影響が及ぶこと、市の財政負担（約6, 550万円）が必要となることから、賛成・反対の主張がそれぞれ存在している。このため、変更議論は市民を二分することのないよう、十分留意して進める必要がある。

2 元号の変更と同時期に市名を変更する考え方について

現段階で市名変更の時期を設定した議論は好ましいものではないが、市名変更の議論が収束する可能性があるのなら、篠山市及び市民にとって、市名変更に係る財政負担の少ない時期として有効である。

3 ブランド振興の継続、拡充について

「丹波篠山ブランド」強化、「篠山」の知名度アップについては、市民全体が期待するものである。

しかし、近年、ブランドを支える特産物の生産量の伸び悩みや、農政改革の負の影響が懸念されている。ブランド振興は、市名変更に関わらず、各方面連携して継続して取り組み、その拡充についても積極的に検討をする必要がある。

幸いにも篠山市は、日本遺産のダブル認定、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟など、ブランド振興に大きな要素を獲得している。また、国土交通省の景観まちづくり刷新モデル都市にも選定されたことにより、まちの景観改善の取り組みが始まろうとしている。これらの資源、事業等を有効に活用する

ことが更なるシティブランドの向上に寄与すると考える。

- 4 今後、市名変更については、会派活動、議員活動による調査・研究に付すべきものと思慮する。

以 上